2015 年 9 月 21 日

中部運輸局自動車交通部貨物課でこれまで取り組んだことのない事業が行われたので紹介します。以下、中部運輸局のホームページなどを引用して報告します。

中部運輸局がはじめたサマースクール

２０15 年９月２１日

はじめに

中部運輸局自動車交通部貨物課は、2015 年（平成 27 年）8 月 24 日（月）１3 時 30 分から愛知県トラック協会青年部部会の協力でサマースクールを開催しました。この開催の背景には、トラック事業が中高年齢層の男性労働力に依存していること、将来的に深刻な労働不足に陥る懸念があるという背景があるようです。

サマースクールのねらい

中部運輸局では、このような背景を受け高校生や学校関係者を対象に物流やトラック輸送に対して理解を深めてもらいたいという思いから、物流施設の見学や現在活躍中の若手経営トップ、若手リーダー、ドライバーなどが物流の魅力を語り、生徒たちと対話することを主なねらいとして開催をしたものです。

配布されたチラシには、「私たちの生活は物を生産し、消費することで成り立っています。そして、生産と消費を結び付ける役割を担うのが「物流」です。物流はあらゆる産業を支える社会に必要不可欠な業種です。このサマースクールでは施設の見学等をつうじて物流・運送事業の社会に果たす役割や仕組みについて学ぶとともに、経営者やドライバーなど現在活躍中の人々と対話をしながら「物流とは」、「企業活動とは」、「人とひととのつながりとは」について、ともに考えます」と書かれ、学校訪問、職業安定所訪問、ホームページ、新聞等のマスコミをつうじて募集がされました。

開催までの検討

開催まで、トラック事業の労働力確保対策検討会を 2015 年（平成 27 年）2 月、3 月、6 月に開催し、トラック事業者、トラック協会、行政の連携による検討が行われました。その結果、施策の対応について 3 つのステージとして、①求人・採用、②育成、③定着の 3 つから①求人・採用について取り組むこととなり、高校生や学校関係者を主な対象にした物流やトラック輸送に関する講習「サマースクール」を開催することになったようです。

開催までの苦闘

募集にあたっては、主に定時性高校、工業高校など約 30 校以上に及ぶ学校訪問による説明と募集要請、職業安定所での会議での呼びかけと安定所窓口でのお願い要請、中日新聞における募集記事の掲載などを中心に広範囲に集中的に募集をしたようですが、定員 20 人には及ばなかったが、高校の進路担当教論１名、男子高校生３名、女子高校生５名、大学生２名の 11 人から応募がありました。特に、女子高校生 3 人が市内の職業安定所をつうじて応募した時は、応募してきた女高生たちの心意気とそれを応援してくれた職業安定所の職員の積極性な姿勢に頭が下がる思いを受けます。

サマースクールの内容

当日は、①全国トラックドライバーコンテストに優勝した倉本さんからの講話、②トラガールとの懇談、③若手リーダーによるトラック輸送と安全装置・IT 活用の説明、④事業所の見学、⑤先進安全自動車の体験、⑥経営トップとの交流などトラック事業所２箇所をバスで移動しました。また、高校生女子３人組が直接、女性ドライバーと懇談するオプションを急遽組むことができたことなど有意義な内容となったようです。

最後に、講習終了証の交付をし、全員で記念写真を写し、18 時頃終了したようです。

サマースクールの総括

このような取組は、初めての取組であること、今後どのように開催趣旨を引き継いでいくかを検討するためには総括が重要となります。以下、私が感じる総括です。

１）応募人数は 11 名にとどまったが、進路担当教論をはじめ、男子、女子高校生が自ら問題意識を持って自らの意思で応募したこと、交通運輸政策を受講している大学生など幅広い応募者による意見交換もできたことは講習を開催する意義があり、開催の目的を達成できたのではないかと思います。

２）少ない受講生のなか、女子高校生など熱心に将来の自分の職業選択にトラガールをつうじて具体的に将来が考えられるようになったのではないかと思う。写真をつうじてもわかるようにどの話しにも真剣に聞く高校生などの姿勢に感心します。サマースクールに参加した高校生たちから開催趣旨がひろがればさらに開催した意義があると思います。

３）このような取組は、中部運輸局、全国でも初めての取組だそうで、検討会などの議論で終わることなく、積極的に行動にでた運輸局担当者の姿勢に敬意を表したい。特に、女子高校生たちでオプションなどができたことは担当者が女性で女性の感性を生かしたことも大きな要因であったのではないかと思う。

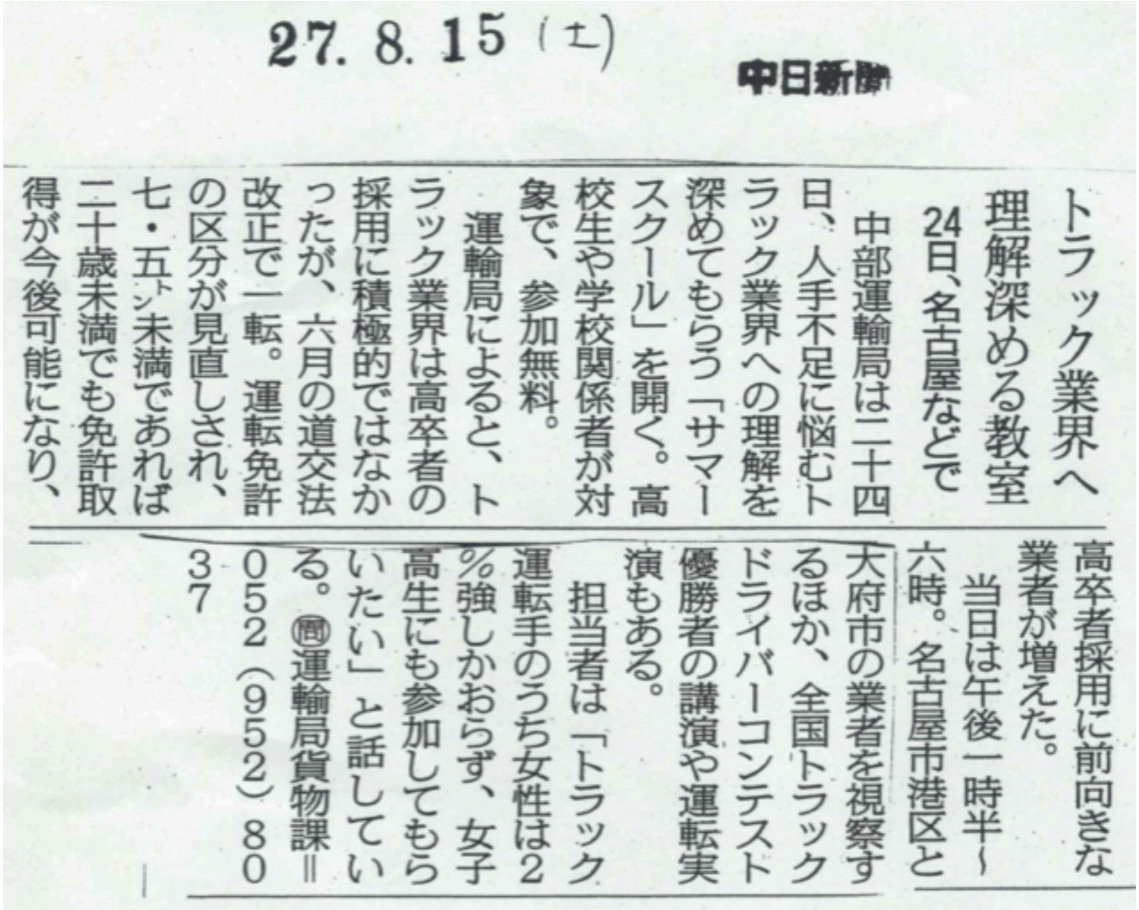
４）開催までに、この時期に開催することへの懸念、行政が開催する意義などが全体の共通認

識になっていないのではないかという感じがします。特に、募集にあたって、関係者自らが「何ができるか」という問題意識を持ち、開催趣旨を機会あるごとに幅広く呼びかけていくことができたか反省する必要があります。

５）今後の課題としては、このような取組が業界を中心として継続できるかが課題となります。これらの取組が協会支部の幹部まで届いていないように聞きます。行政、業界はこの取組を機会あるごとに知らせ、各地域で取組が行われるようになれば、今回の開催意義はさらに深まります。

　この取組のほかに中部運輸局では、60 時間問題をはじめ労働環境の課題をはじめ、荷主との適正取引などの取組が横断的に行われているようです。さらに、トラック業界全体の職務評価の向上が図ることができればいいと思います。

　以上、これまで貨物課業務にかかわってきた者としてこれらの取り組みに敬意を表したいと思いホームページに掲載するものです。


27. 8. 15（土）　中日新聞

トラック業界へ理解深める教室
24日、名古屋などで

中部運輸局は二十四日、人手不足に悩むトラック業界への理解を深めてもらう「サマースクール」を開く。高校生や学校関係者が対象で、参加無料。

運輸局によると、トラック業界は高卒者の採用に積極的ではなかったが、六月の道交法改正で一転。運転免許の区分が見直しされ、七・五トン未満であれば二十歳未満でも免許取得が今後可能になり、高卒者採用に前向きな業者が増えた。

当日は午後一時半～六時。名古屋市港区と大府市の業者を視察するほか、全国トラックドライバーコンテスト優勝者の講演や運転実演もある。

担当者は「トラック運転手のうち女性は2％強しかおらず、女子高生にも参加してもらいたい」と話している。（問）運輸局貨物課＝052（952）8037